

## 論文番号 186

担 当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題 名 (原題/訳)

Alcohol differentially affects noradrenergic and purinergic responses in the bisected rat vas deferens.

ラット輸精管でアルコールはノルアドレナリン性応答とプリン性応答に異なった影響を与える  
執筆者

Boselli C, Govoni S

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcohol 22(2): 91-96 (2000)

キーワード

エタノール、ラット、輸精管、アドレナリン性反応、プリン性反応

要 旨

本研究はラット輸精管の副睾丸および前立腺部分のアドレナリン性ならびにプリン性反応に対する、急性 *in vivo*、*in vitro* のエタノール処置効果について検討した。*in vivo* での急性エタノール処置(3.0 g/kg, i.p.)は、副睾丸部分に影響することなしに、輸精管前立腺部分のノルアドレナリン性反応を選択的に抑制した。さらに *in vivo* でのエタノール処置は、副睾丸・前立腺部分の両方で、最大濃度の $\alpha,\beta$ -methylene-ATP による反応を有意に抑制した。*in vitro* での 50 mM エタノールは両組織で外因性ノルアドレナリンによる反応に影響しなかった。*in vitro* でエタノールは副睾丸部分の $\alpha,\beta$ -methylene-ATP に対する反応に効果なかったが、前立腺部分の収縮反応を増強した。これらの結果は、*in vitro* と *in vivo* でのエタノール処置は、輸精管でのノルアドレナリン性ならびにプリン性応答に異なった影響を与えることを初めて示したもので、エタノールは男性生殖路機能を変化させることを示唆している。